



第5号 発行所 香川自治会 広報委員

駅前道路の整備実施に決る

市・本年度追加補正予算で

明るい街づくり

香川地区従来の発展に大きくかわる問題として香川自治会が数年前から熱心にこれの実現化を推進...

駅前道路の改良工事

間門線と北陵高道路をつなぐ曲り道を直線舗装道路に改良(延長七〇m、中六・五m)。併せて道路と駅構内境界にガードレール設備、便所の新築移転を含む。

簡易舗装工事

(1)諏訪神社前南、北通り(延長一八〇m、中二・五m)。(2)香川小学校：甘沼地内に至る。(延長一八〇m、中三・二m)

排水路工事

(1)東地区玄明寺東側排水路新設(二〇〇m)。(2)原地区、春山氏宅附近(二四〇m)

市街化への布石

防犯灯設置

八灯分を追加(年初七灯分に追加)

この整備計画の実現によって香川が抱える大きな懸案の一つが達成されるわけだが、完工の暁、同地区はスッキリと姿を変え、表玄関としての面目を一新し、交通上の住民の不安も解消されよう。



香川は健康長寿の町 九月十五日は「敬老の日」。この日にちなんで全国各地で多彩な記念行事が行われたが、茅ヶ崎市でも市主催による第十七回敬老大会が午後一時から市体育館で盛大に挙行された。

いつまでもお元気で

とところで近年日本人の平均年齢が毎年伸びてきていると云われるが、さてこの香川には一体どのくらい長寿の方が居られるのかと試みに市の台帳によって調べてみる

市立保育所の設置もほぼ確実

早ければ47年に開所か

働く人達のために公営保育所を、という強い住民の要望をバックに香川自治会関係地区団体とも緊密に連携し、その必要性を裏付ける有力な調査資料をもとにして、本年早々市議会に設置する香川地区に設置するよう陳情。市議会においては慎重な審議の結果、近年の香川地区の急速な発展の実情と将来性から考え陳情の趣意を公正に評価され、遂に採択を勝ち得たことはいずれも知られたことである。

茅ヶ崎市総合計画と香川(その3)

公共下水道施設 下水道事業計画については前号でも触れたように市街化地区から順次整備を進める計画であって、香川地区が所属する小出川左岸排水区については長期計画前期の四十七年までには実施計画はない。

生活環境と福祉の向上

小河川についても夫々改修、水路整備を年次計画で実施し四十七年までのこれに要する総事業費約一億四千万円を予定。

都市の繁栄の

単に人口が多く、産業が発達していることだけで都市が繁栄しているとは云いきれない。大切なことは、住民のすべてが豊かな生活環境に恵まれ、健康で文化的な生活を営む姿そのものが本意の意味の都市の繁栄と云うべきで、今後、市のこの面に対する積極的な取り組みを切望したい。

保育所施設

総合計画のなかで社会福祉施設の一つとして掲げられている保育所の建設計画に対して香川への誘いがほぼ確定していることは別掲の通り。

Table with names and titles, including 栗野マツ, 石井セキ, 石塚由丸, etc.

文政八年の古文書

伊勢詣りメモを発見

このほど香川二二八番地在住の三橋一松さん宅で「伊勢道中覚」という一四五年前の古文書が発見された。文政八年西正月九日道行十一人で行った伊勢・奈良・京都などを旅行した宿泊所・見学地・費用などを上質和紙半折、片隅を綴り草書体で墨書したもので興味深い資料である。

この記録から一人当りの費用を推計してみると六〇八四文となる。これを当時の通貨に換算すると一両が四〇〇〇文だから一・五二一両、当時の米価に換算すると一石二斗三升、米価一升二二〇円として金二七、〇六〇円となり、一日当り八二〇円となる。

このメモの解説は当てる字や今はない地名などもあって苦労したが、「東海道中膝栗毛」(弥次喜多の道中記。このメモより二三年前刊行)、「東海道名所図説」(日本地図(江戸時代も含む))などを参照して、ようやく次のように判読することができた。全文註訳するだけの紙面がないので主なもの註釈と解説文を掲げることとした。

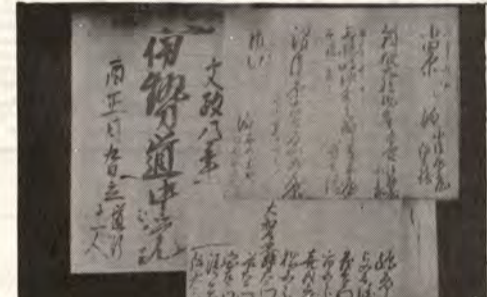
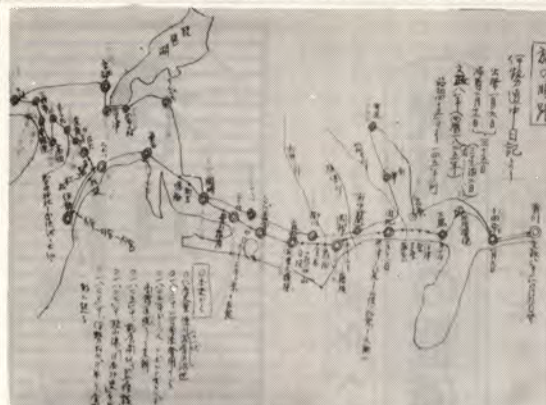
解説文

伊勢道中覚
文政八年西正月九日立
道行十一人

孫二郎 与兵衛
茂左衛門 市五郎
喜代蔵 松五郎
大和屋 外右衛門 治右衛門
五人 伊右衛門 清吉

伊勢道中覚

文政八年西正月九日立
正月九日 小田原泊 小清水屋
伊兵衛 箱根大権現参り 中食
伊勢屋五兵衛
正月十日 三島明神参り 泊
青木屋善兵衛 浅間へ参り沼津、
原、吉原、蒲原
富士川 舟 三十五文
正月十一日 由比 泊 木の国



屋四郎左衛門 興津 江尻より三保の松原へ舟にのり女所の三保大明神参り 久能山参り 府中村 安倍川 四十五文 二し川 駒子 正月十二日 岡部 泊 吉野屋 権之丞 瀬戸川 二十文 藤枝 田中城あり 島田 金谷 この間に大井川 百五十六文 佐夜の中 山 無間の鐘 船 お餅名物あり 日坂に名物わらび餅あり 掛川より秋葉へ

正月十三日 森村 泊 甲州屋 清七 西又 見倉 犬居 吉野屋 茶屋あり笛茶屋 秋葉大権現参り 正月十四日 雲名と申す所 泊 宿より舟にのり舟賃百文 鹿島へ上りこの間に三方の原あり 吉良新居の関に御番所あり 氣賀 正月十五日 三ヶ日 泊 梅鉢 屋半蔵 豊川稲荷大明神参り さいへ村 赤坂 藤川

正月十六日 岡崎 泊 木京屋 知立 鳴海 宮より舟にのり七里ヶ滝 百文かし 泊 宿山田屋仁兵衛 名物焼き蛤あり 四日市 これより伊勢大神宮へ 伊勢津 藤堂和泉殿城あり 宿松坂 小幡 正月十八日 雲出 泊 宿松坂 小幡 宮川 伊勢 鈴木権太夫 古市 山田大神宮参り 外官山 春木太夫 御本丸の太夫なり 内官内山本太夫 御本丸の太夫なり 伊勢朝山下権太夫方より六軒茶屋迄 帰り追分あり 二里ほどいけば 愛田 泊所

正月二十一日 丸屋定右衛門 此所に藤堂宮内様城あり 名張 笠間 泊 和泉屋利兵衛 三本松 初瀬の観音参り 塔あり 三輪の明神参り 名物 そうめん

正月二十三日 大和屋仲助 塔あり 春日大明神参り 塔あり 申沢の池あり 十三鐘あり 大仏に塔あり 大鐘差渡し九尺 三笠山あり 山上の小銀治屋あり

正月二十四日 角屋善右衛門 岡寺 参り 多武峰あり 大織冠鎌足の大明神 ここに十三塔あり 下座より 吉野上市村吉野山 蔵王権現 千本桜 金の鳥居 丸み一丈二尺 長さ二丈八尺 泥川だら

助あり 二十五日 高田 泊 源七 五条 之より高野山 普賢院 泊 蛇柳あり 石田三成の石塔あり 大徳房と申し候は江戸御本丸房なり。三軒茶屋下り 橋本より大阪へ

正月二十七日 古年屋佐兵衛 堺 妙国寺参り 難波屋 松住吉大明神参り 天下茶屋あり 大阪天王寺参り 塔あり

正月二十九日 大阪道頓堀南つめ 日本橋 外 屋市兵衛方へ泊 異屋大ぢん之あり 仁徳天皇参り 難波の池あり 出世大明神 西門跡参り 東門跡参り 四つ橋あり 柳行季節屋あり 大阪本町御堂筋 幡屋屋清七 砂場のそば 名物 一膳六文ずつ 御城内欄干々を見る 大阪より京へ舟にのり十一人百六十文 伏見 へ上り 稲荷大明神参り 東福寺参り 三十三間堂参り 大仏 清水寺参り 紙園参り 知恩院参り 寺町通り 本能寺参り 妙満寺参り 関白様九条様あり 右 仙洞様あり 南側 朝日御門 白河大納言内へ入り 小野天神参り 二条山 清閑寺参り 歌中

正月三十一日 京都 津国屋仲兵衛方へ泊 大津村 三井寺参り

二月一日 草津 水口 泊 九屋金左衛門 近江国鈴鹿山 瀬田の唐橋

二月二日 四市の追分 村野屋金左衛門泊 桑名より小夜へ舟にのり四十八文 外に二十四文 津島 牛頭天王参り

二月三日 ちし倉 泊 池田屋四郎右衛門 尾張名古屋村 宮村

二月四日 さかな町 岡崎 泊 金目屋久兵衛

五日 白須賀 泊

六月 掛川 泊 興津より身延山参りへ 安原 満沢 南部 泊 松田屋勘兵衛

二月九日 竹房 泊 身延七面様まで参詣 大野山参

舟にのり一人十二文ずつ 富士の渡御難所あり うちふさの本上寺あり

十日 吉原泊 藤元善六

十一日 小田原下り 小清水屋伊兵衛 京泊り宿銭下直と申し候て一夜泊り二百文ずつ

大阪下直と申し候て同二百文ずつ

(註)

○女所の三保大明神 『東行紀録』に「三保の明神は仲哀天皇なりと申す。神書を考ふれば三穂津姫なるべし。高産靈尊の御女にて、大己貴尊に嫁し給はんとて天上より下し給へば名詮相称ひ天の羽衣かけほす天女の天降したる物語是なめりと神主申せば云々。無間の鐘小夜の中山無間山観音寺の梵鐘のこと。それをつくと現世では無限の財宝が得られるが未来では無限の地獄に落ちるといわれた。そこで或僧が諸人の地獄に落ちることを欺いてその鐘を古井戸の中に埋めたという。無間地獄は八地獄の一つで五逆罪を犯した者が落ちる所

○秋葉大権現 秋葉山鎮守で当時著名な霊場であった。○三方原 浜松より乾の方一里にあり、和地村、祝田村、都田村三箇の牧場なるを以て「三方の原」という。

○伊勢津 津市。藤堂高虎の城を構えた所。昔は安濃津と云った。

○古市 伊勢市古市町。当時遊廓があつて繁華をきわめた。

○追分 今は四日市に編入。追分町。京都道と参宮道との分岐点で参宮道には大鳥居が立っている。

○初瀬 伊勢から伊賀へ出て初瀬へ行くのが順路だった。○山上の鍛冶屋有名な打物師「菊水」だろ

境内に高さ六m周囲十七mの大蘇鉄あり蘇鉄寺とよばれる。○西門跡 ○東門跡祖師の法門を継いでいる寺院。難波別院(南御堂真宗本谷派)、津村別院(北御堂真宗本願寺派) ●砂場の蕎麦 砂場新町遊廓の入口であつて西の大門のある所、うどん、そばが名物、中でも和泉屋右兵衛と津国屋作兵衛は有名だった。○富士の渡御難所 水神の森一が富士川右の山際にあり。巖上に松生い茂れり。昔の川筋定まらず水難多きため人々敷き長堤を水神の殿に築けり、これ以後水難なし。○下直値段の安い物

(お買上げ 100円 毎 に サ ー ビ ス 券 1 枚 進 呈)

高橋牛乳店	ミヤマ洋品店	八城商店	シヨコーストア	みやしろ商店	鈴木薬局	熊沢屋酒店	香川電機	坪田輪業	大野屋菓子店	宮代肉店	魚賢	よしみや	中華一番	香川クリーニング	高木薬局
-------	--------	------	---------	--------	------	-------	------	------	--------	------	----	------	------	----------	------

老いも若さも健闘

第二回体育大会終る

九月二十日(日)、第二回香川地区体育大会が、地区体育振興会主催のもとに、香川小学校校庭で八時半から開会された。

最後まで心配された雨も、朝にはやみ、晴時々もりという、絶好の体育日和となった。

開会式に続いて、全員によるラジオ体操が行なわれ、「蟹の横ばい」「ネコとネズミ」「こりやまたけっこう」など、趣向をこらした各種競技が次々にくりひろげられた。「つな引き」や「リレー」には「よいしよよいしよ」「がんばれ」など、会場から声援がとびわたった。ことに大会のハイライト、最終種目の町内対抗リレーには各町内あげて総立ちの応援。また、ジュニア等のリズムや、炭坑節、相馬盆歌、オクラホマなどポピュラーな種目もあいまに行なわれ大会気分を盛りあげた。

町内別採点種目は、(1)男子町内対抗の「つな引き」、(2)女子町内対抗の「二人三脚リレー」、(3)男子町内対抗の「アベックボーリング」、(4)男女町内対抗の「地区対抗リレー」の四種目、その総合成績は、

- 第1位 原地区
 - 第2位 東、北、篠谷
 - 第3位 南、沼田地区
 - 第4位 中通地区
- の順、優勝の原地区には亀井会長から優勝旗と優勝杯が贈られた。原地区は二年連続の優勝である。参加者は、寿クラブ、婦人会、青年会、子ども会、一般と地区在住のすべての人が参加、老いも若さも一日を、思いきり愉快に過ごした。

写真説明

意気ピツタリ・その調子で

2人3脚リレー (町内対抗)



「外食も飽きたなあ」御主人がこんなつぶやきをもらしたら、すかさず、ポリウムがあり、栄養もたっぷりのお弁当を作ってあげましょう。お弁当は作るのも持たせて出かけるのも確かにめんどうですが、栄養的には安心。毎日ならずとも、せめて週に一、二度は愛妻弁当を作ってあげてはいかがですか？

そこで仕事の能率をあげるポリウム弁当を御紹介します。

◎材料 一人前
 a 「ポークソーサー」2枚
 b 「スクランブルサン」2枚
 (各5mm厚さ) パター マスター

①卵は割りほぐして塩、胡椒をふる。フライパンに油を熱して卵を流し入れはして大きくかきまぜてスクランブルエッグを作る。

②黒パンにバターをぬって一枚にサラダ菜をしき、①の卵をのせ薄切りのサラミソーサーをのせ、もう一枚のパンでふたをする。

③卵は作り方
 a の作り方
 b の作り方

「健康は人生にとって大切で、明るい社会も民族の繁栄も健康なくしては存在しない。それには努力が必要だ。」と語っている。

身体運動にもいろいろあるが歩行運動がもっとも手軽でよい方法のこと。

十月には当地区スポーツ振興会主催の一万歩大会が行われ、十一月には県歩行運動推進大会茅ヶ崎大会も実施される予定なので、日々の運動不足を補なういみにおいでも、ふるって参加してほしいと思う。

適度な運動と必要にして十分な栄養をとり、明朗活潑な気分での点のない生活を維持しよう。

万歩大会に——参加を

体育指導員 大久保 洋

朝食はこんなものを朝のコンディションと朝食朝起きてから、出勤するまでの一時は、一日の活動をつかさどる交感神経の働きを、だんだんに強めていくための、ちょうどよいウオーミングアップの時間ですが、朝食で、せっかく高まりかけた交感神経の働きをおさえ、電車で通勤リなどということはありませぬか？

●米を腹いっぱい……などというのは、愚の骨頂。必要なものは魚・肉・卵・牛乳などのタンパク質と、新鮮な野菜のビタミンなのです。これは、体の様々な作用をスムーズにし、夜たくわえられたカロリーを引きだすためです。

●パンにコーヒード、あるいは大急ぎでお茶漬をかつこんで……などというのではないように、それはスタミナにはなりません。

生活の知恵

◎くつ下のテンセンの予防法

ナイロンのストッキングのテンセンは女性にとってはなんとつまらないタネです。これを予防するには、はく前に、お酢を入れたぬるま湯にしばらくつけて、かわかしてから使うようにすると、不思議とテンセンにもなりにくいものです。

ただし、お酢のお酢の心配な方はあとのすそぎを、ぬるま湯で十分になさってください。

健康メモ

安心して通れる道路を

私は地産団地に住む主婦ですが、大山街道踏切より西側の舗装道路が狭く、買い物に行く際いつも危険にさらされ困っています。

自転車で買い物する主婦の身になって陳情して下さいませんか。今にきつと事故が起ると思いますが、お願いいたします。

(回答) 問題の箇所は道路に私有地があり地主から異議が出て舗装を未だに拒否されているようです。さりとて現状のままでは確に事故が心配されるので、早速県及び市当局に善処方を申し出て解決をはかりたいと思うのでご了承下さい。(自治会長)

お 買 物 は 香 川 商 興 会 加 盟 店 へ

丸徳商店	川口屋支店	内田履物店	三河屋菓子店	金子薬局	小坪屋米店	イサミヤ酒店	山口屋食品店	田中文具店	板倉金物店	カバヤ寝具店	香川屋菓子店	西野酒店	カンナ糸店	尾島酒店	香川プロパン
------	-------	-------	--------	------	-------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	------	-------	------	--------

郷土の歴史

香川と香川氏

讃岐の香川を中心として

伊東信子

「讃岐の地名とその伝説」をみると、「香川」という地名は香東川からきたように思われる。香東川の流れる所が香川郡であり、香川郡を中心とする讃岐一円が香川県といわれるようになった。

香川郡の奥山に榊河という所があるが、この里に上古、古木の榊があつて異紛ふんぶんとしたいた不思議な事には、その樹下から湧水する水、また匂いと高く、流れて大河におちあい、郡の中央を流れて海に注いだ(香東川又は郷東川)ため、郡中常に馥郁として匂い渡った。

因って香川の名をだし、その河流の東を香東といひ、その西に属する地を香西といひ、やがてまた郡名は県名となつたのである。と記してある。川がよい香がしたので地名となつたというは当地にも伝えられてゐるし、寒川、香川の地名や香川郡一の宮村もあり、官弊社や讃岐第一の格式の高い一の宮神社があるのも面白い。

讃岐の香川氏は、西讃諸氏の嗣なき跡をうけて入国し、多度、三野、豊田三郡を管し、多度津天霧に城拠した。香川氏は鎌倉権五郎景政の後裔といわれているが、『道隆寺温故記』には藤原姓となつてゐる。相模国香川庄に在つたので香川氏と称したことが『新修香川県史』にも記されている。

管領の職に就くこと二十二年、一族の領地は四国、淡路、和泉など十二ヶ国に達し権力絶大だった細川勝元の股肱の臣として香川肥前守元明は、香西備後守元資、安富山城守盛長、奈良太郎左衛門元安とともに、勝元の四臣、又は「四天王」と称された。香西氏以外は細川家の譜代の旧臣で、四家とも、香川家は香川兵部少輔元光香西家では香西備中守元直、安富家では安富民部少輔元綱、奈良家では奈良備前守元吉の各総領は、

領地を幾内に賜り常に在京し、管領家の執事として重きをなして活動した。彼らの名のり「元」の字がつくのは、勝元の一子を受けられたからでいかに重んぜられたかがわかる。応仁の乱の時にも讃岐の将兵の活動はめざましく、香川氏以下は京の西南部に陣どり活躍した。即ち観音寺浦を香川氏が浦長を置いて警備し、細川成之に属する香川五郎次郎和景は讃岐から兵をひきいて入京、六月二十七日近衛室町合戦に奮戦して、勝元から感謝状をうけてゐる。

文明十三年九月屋島寺の開帳のことから香川氏と寒川氏が権を争ひ合戦に及び、寒川氏が敗れたことが『極楽寺宝蔵院古曆記』にみえてゐる。応仁の乱後県内諸將が勢力を争つて干伐を交えるに至つたことは、みな当時の実力主義の世相に左右されたからである。讃岐から京に帰つてきた羽田源左衛門という者が、相国寺の塔頭蔭涼軒の僧に物語つてきかせた話に「讃岐は十三郡で内六郡(綾北条・別府・那珂・多度・三野・豊田の西讃六郡)は香川氏が領し、七郡は安富氏が領してゐる。香川氏配下の国衆は皆小分限者ばかりであるが、よく香川氏に従つてゐる。安富氏配下の七郡の国衆は大分限者が多く、中でも香西党が首位であり、各々好む所を行なつて安富氏の命に従う者がほとんどない。」とある。

村上天皇の正平十七年(一三六二)細川頼元が高屋の城を攻め、細川清氏を滅ぼした。この戦いに功のあつた香川景房(景則ともいふ)に三野、豊田、多度三郎を与へたといふ。『讃岐細川記』には貞治三年のことだとしてゐるが『四国名所誌』には正平十一年香川信景の時代、『讃州府志』には応永の頃と記されてゐるから、正確なことはわからぬに判断できない。おそらく正平十七・八年頃かと思はれる。景房は多度津の本台山(本多)に居館を構え、背後の天霧山に山城を構築した。山麓の谷間には香川氏の鎮守といわれる古八王子神社がある。又香川氏の墓は犬返しを下つた西方、弥谷山の中腹、弥谷寺の境内にある。

戦国時代天文二十年三好長慶は細川晴元を退け、室町幕府の実権を自分の手に握つたので、三好氏に款を通ずる者がふえた。しかし景房は伊予湯築城主の河野氏と共に、安芸の毛利元就に属しようとしたので、三好氏は永禄元年(一五五八年)九月二十五日一万八千の大軍をひきいて多度津郡に入り、善通寺に本陣を構え天霧城攻め体制をとつた。景房も領内の土民を集め老人に城を守らせ、六千余人の壯年たちを配置対陣。こうして三好氏の配下香西元成が「河野、毛利の援軍がきて戦はば戦況は不利となる。よろしく和議により屈服せよ。自分は香川と同盟だから隔心はない。命により彼を論すべきだ。」と申したので、遂に干伐を交へることなく香川氏と三好氏の間に和議が成立した。

しかしやがて土佐から身をおこした長曾我部元親の出現で、天正七年(一五七九年)香川元景(信景)は長曾我部と戦つたが、元親の二男五郎次郎を養子婿にすることに和議し、元親に属することになつた。五郎次郎は入婿して香川親政と名乗つたが、天正十三年豊臣秀吉が四国征伐軍を發し、各地で長曾我部氏を破り、元親を土佐一国に封じこめ、阿波、伊予、讃岐の三ヶ国を没収したことを知るに、信景は天霧城を去つて土佐へ移つた。

土佐の長曾我部氏に和親し、家長曾我部親政に譲つた。親政は香川氏をめぐりその家号を冒した。長曾我部親政の後、土佐に帰る香川氏は遂に絶えてしまつた。香川県で香川氏に属してゐた城は天霧城(多度津、城主香川景房)研磨山城(善通寺市、香川伊賀守居城)、西庄城(坂出市、香川民部少輔居城)、高野城(上高野村、香河右馬助某居城)、景全城(観音寺村、香川景全居城)、高谷城(香河山城守居城)、麻城(三豊郡高瀬町、城主近藤出羽守伊久)などである。

香川氏の同族である梶原景長(鎌倉権五郎景正の孫、景忠の弟)とその子景時は、今の鎌倉郡深沢村梶原に在りて在名を稱した。後、高野山に在りて在名を稱し、屋敷内を稱してゐる。景時及び景秀は、正治二年謀叛を謀つた故をも文学散歩

文学散歩

鵠沼の東屋

大正文士が集る

今回は鵠沼の文学散歩を御紹介する。別荘地として名高い鵠沼海岸には与謝野晶子、久米正雄、芥川竜之介、宇野浩二、里見洋次、中村武羅夫など大正時代文士にゆかりをもつ東屋があつた。大正の中葉から十四、五年頃までが最も多い。大正四年武者小路実篤が海の家を求めてここに着目した頃は、鵠沼駅附近は半里以上にわたる大樹海で、商家が二軒ほどと人力車の車宿があつた。徳富蘆花が人力車をぬってここを訪れたのは明治三十年代の初めだ。彼の「思ひ出の記」には「満地の砂は日を照りかへして、往時を知る者にとつてさきさきらしい光が眼を射て」と書いてゐる。往時を知る者にとつてはまさに隔世の感がするであろう。大正八年、殊に九年十年と鵠沼東屋時代が出現した。集まる常連は前述以外に江口暎、佐々木茂索、大杉栄等で、別々に出かけたり一緒にいたり、期間は宇野氏でも

って駿河に殺された。金沢文庫所蔵海蔵寺本「鎌倉鶴岡大帥子」によると、「宝徳二年四月、上杉憲忠の老臣、太田資清長尾景信が相謀して鎌倉を襲つた時の管領成氏はひそかにこれを知り、夜半江の島に逃れた」とある。また太田道灌又は父道真の集か不明といわれる『纂景集』(纂京集)には「康正元年の冬、藤沢の役に至り待り、敵も味方も入りまじり、三日をかきかされていどみ争う事になりぬ。されども屋形の武威強くして北条が上杉憲宣のぬし、終に自服して余兵おのがじし空しうなる。」とある。

かくて香川氏の遺跡は当地にあつたとどめず、その子孫も各地に移住してしまつたわけである。(完)

期間はず野氏でも一週間から、半月間ぐらゐに渡るのが常であつた。この東屋時代とは、大正という世離れて自由な長閑な日の別名であるといえる。大杉栄の部屋に集まつて毎日花札遊びに夢中になつたり、将棋をしたり、文壇四方山話に明けくれられた。島田清次郎吉屋信子も現われた。また付近に四軒別荘といわれる建物もあつて、武林夢想庵や武者小路につれられて岸田劉生、椿貞雄等もこの辺りにやつてきたといふ。症状の悪化した芥川は、大正十五年四月からその年いっぱい大体この鵠沼に滞在した。

茅花会

九月投句集より

芋の葉に新芋承せて貰いけり 裸の子逃げこんで来た客間かな 一筋の花野道途切れて先は海 手助けの子等に感謝の夏終る 銀河澄む酔客無事に送り得て 久江 咲き残るグリアの花に秋来たる 荒れ狂う土用の海に夕陽落つ 悦子 梅干せる逆夜露にぬれしまま 乗り降りのまばらな小駅グリア咲く 成美 点となりいて振れるハンカチ焼ける 嫁の座に古りて芋堀る指太き 百合子 虫干しや母の語りのまた長く 今年また土用の饅頭戴す 蘇山 海水の子報もけわし土用波 大輪のグリアやまぶしく日に栄えて 夢峯 土用屈馴れぬ仔犬をもてあまし 磯に焚く火の色淋し土用波 いろいろなグリアや咲かせて妻健康 土用屈客も主も疲れおり 球子 雨欲す農夫端居に雲流れ 吟詠に鈴虫和する良夜かな ぶじ子 時代調めぐる流行土用干し 夕リヤ紅し薄命な娘の墓と聞く ハツ子

あとがき

創刊以来四面の文化欄と料理欄が好評を博している。読者から発売を待たれるほどであるのは嬉しいことだ。

今回は三橋一松さん提供の古文書の特集した。茅ヶ崎市でも市内の古文書の調査収集をしてゐるので、書きつけ、写真、地図などなんでも結構ですから当委員会にも御連絡下さい。